

日本工学院専門学校		開講年度	2019年度		科目名	サウンドシステム4	
科目基礎情報							
開設学科	音響芸術科		コース名	全専攻		開設期	後期
対象年次	2年次		科目区分	必修		時間数	30時間
単位数	2単位					授業形態	講義
教科書/教材	授業内で資料プリントを配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。						
担当教員情報							
担当教員	川澄 伸一			実務経験の有無・職種	有・レコーディングエンジニア		
学習目的							
現場にでて実践的な音響やシステムの取り扱いや知識を広げていくことが目的。近年のレコーディングはコンピュータによるDAW化によって手軽なものとなり、簡単な操作をすれば何かしらの音の変化を起こすことが可能となった。しかし、闇雲に音をいじる事は完成時に振り返りの付かない結果を招くこともある。目的とする音作りへの到達は音の現象を正しく理解し、効率的にパラメーターをいじることによって速度アップが可能となる。そのための音響基礎の理解を目的とする。							
到達目標							
プロフェッショナルとしての音の扱い方のまとめ。アナログ機器とデジタル機器を平行して学習していくことにより、音の処理を基本的な部分から理解し、音の変化の仕組みもイメージできるようにする。音に関する単位や様々な基本的な数値についてもしっかりと記憶していただき、プロフェッショナル・エンジニアとしての知識を豊富にしていく。近年のデジタル化により音の記録フォーマットも増えているので、これからの新しい技術に対応していくためにもアナログ的な基本技術も理解していくことを目標とする。							
教育方法等							
授業概要	プリント資料を適時配布し、自分で完成させるワークタイプの物も配布するが、各自で音響関連の用語集を持参することが望ましい。講義形式の授業である。前回までの各項目を理解した上での次項目へ繋がるため、復習も随時行いながら進行する。復習や仮説においては各自の発言の機会もあるので、積極的な参加が望ましい。映像、音響資料も多用する。						
	この授業では、音を扱うプロとしてノイズと捉えられる授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。						
注意点							
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験・課題	80%	試験と課題を総合的に評価する。				
	小テスト	0%					
	レポート	0%					
	成果発表 (口頭・実技)	0%					
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する。				
授業計画（1回～15回）							
回	授業内容			各回の到達目標			
1回	モニターについて			モニター、モニターコントローラーの仕組み、ヘッドホンとスピーカーについて理解する			
2回	5. 1サラウンド			サラウンドシステムの概要ついて理解する			
3回	映画館のサウンド			Dolby,DTS,THXの特徴と違いを理解する			
4回	劇伴収録			映像とレコーディングスタジオの関係がわかる			
5回	音響補正			ピッチ修正とタイミング修正ができる			
6回	様々な楽器収録			ポピュラーから珍しい楽器の収録ができる			
7回	ライブレコーディングシステム			ライブレコーディングとスタジオレコーディングの違いを理解する			
8回	マルチトラックの技術			アナログ時代のテクニック、ノイズ対策、ピンポンなどを理解する			
9回	DTM			DTMの誕生からProToolsの流れを理解する			
10回	マスタリング			アナログ時代～現代のマスタリングを理解する			
11回	エフェクター応用1			イコライザーとコンプレッサーが使えるようになる			
12回	エフェクター応用2			リバーブとディレイが使えるようになる			
13回	エフェクター応用3			モジュレーション、その他エフェクターが使えるようになる			
14回	Voice			人の声の録音と加工の応用、実践例を理解する			
15回	後期まとめ			全体の確認と復習			